

## 第1回(仮称)市民活動推進条例検討会 記録

### 【日時・場所】

平成28年5月30日(月)18:30~20:50 第1委員会室

### 【記録】

- ①市長あいさつ
- ②委員紹介
- ③条例の概要と、検討会の役割を説明
- ④条例制定までのスケジュールの確認
- ⑤この検討会の各回のテーマの確認
- ⑥検討会を効率的にすすめるための約束事の確認
- ⑦事務局報告:市内の市民活動、協働の歴史
- ⑧事務局報告:他市条例との比較
- ⑨アイスブレイク
- ⑩市民活動団体アンケート結果についての意見交換

2班に分かれ、資料「市民活動団体アンケートの結果」について意見交換。

- ・このワークは何を目的にしているか?後の工程にどうつながっていくか。
- ・アンケート結果を見ながら、課題と思う点を挙げて頂き、検討会の後の工程につなげたいと考えている。

#### ■ チーム1

- ・解読力が問われますね。1ページ目からアンケートを読みましょう。(全員でアンケート結果を確認)
- ・ひとりずつ意見を出して下さい。
- ・何をやるにも高齢化が問題になっている。市には〇〇をやってほしいではなく、自分たちはこうやるから市はこうしてくれと言うべき。市との協働が大事。
- ・協働の評価をする適正機関がない。実績の積み上げを評価できる項目が見つからなかった。指定管理者を経験したNPOの感想が伺えなかった。後継者育成には行政の財政支援が欠かせない。
- ・鎌倉の特徴として、道徳心が高い人が多い。所得の高い人が多い。高齢化、この3点が空き巣に狙われる三要素と防犯で必ず言われる。本来補完組織であるかどうか。NPOの定義は何か。鎌倉の場合、三分の二が福祉。そうした場合女性中心になる。NPOといえども、行政も会社もやっていないすきまのニッチビジネスを狙うべきではないか。HPとか機関誌を出されてるけどマスコミをうまく使うと良い。マスコミに言うと評価される、人が集まる、おもしろそうだなとなる。自分だけの世界だけでなく市民からも意見とりいられるようになる。
- ・逆にマスコミから意見をもらったり、紹介をうけることもある。
- ・市民活動アドバイスする市民活動があったら良い。NPOセンターの役割かもしれないけど行政に求められてもいいアドバイスできないなと思う。もともと民間から市役所入ったとき、100%の満足は得られないけど、できるだけ多くの人に伝えたいと思った。市民活動理解しない人は絶対にいる。生活支援が大事だとか、相互理解してもらえないと市として積極的に関れない。従来とは違う枠ぐみの整理も必要かなと思う。
- ・NPOの人は自分たちの活動がいちばん尊いと思っていて、他が見えなくなってしまう。
- ・評価につながる何かがあった方がいい。設置されてからの年数、5年以下が半分を占める。新しい団体は

立ち上がってないのかなと思う。

- ・後継者不足と同じように、新組織が立ち上がっていない。
- ・市とのかかわりが無い、他団体との交流がないという団体は、どうしてだろうと思う。自立が完全にできてないからなのか、市が頼り無いのか。
- ・サークル系、文科系データも入っている、書道の会とか。そのせいもあるかも知れない。
- ・関わりやアドバイスを市から求められたという団体があり、そういう姿がすてきたと思う。団体が市の施策を支援するという関係がすてきたと思った。
- ・市側を助けるということですね。
- ・会議室、市が提供できれば良いのだが。町内会館とか提供してもらえないのかとふと思った。
- ・NPOは、専門性がないところが弱さ。それ弱さだと気づくころまで、無知のままやってきた。専門性がなくても熱意があったら育てて導いて教えて、こういうふうにするというよと提案してほしい。市は団体に口出ししてはいけないと遠慮されているみたい。こういうところを求めている、こういうところが足りない、と教えてくださったらもっと頑張れた。ニーズは私たちのほうが絶対詳しい。市民団体は、ボランティアで無償だと思われる方が多いので、市民活動をされている方は、能力が高い方が多いが報酬を得るのが難しい。団体はもともと年齢バランスが偏っているので長続きしていない。自分の団体は広報ちらしHPからステップアップできていない。専門家や他団体と協力していくのが必要。
- ・他団体との関わりを持とうというのがテーマだが、本当に求められているのかが疑問。アンケートの中では、事務局が個人宅の所もあった。くつろげる面がある。場所を借りるとコストかかる。場所、社協だと紹介できることもあるが、特定の場所が必要か。動いてもいいのか。社会貢献企業として会合するところもあるが、地域の地縁団体とつながりがあり、NPO とはない団体がある。高齢化、人手不足、会員不足・・・共通の基盤があるのでは。アンケートから分らなかったが、経過年数で課題は変わるのかどうか。
- ・高齢化は市全体が高齢化しているので、市の問題。団体の規模は様々なので、規模に応じて支援しなくてはいけない。公平平等ではだめ。
- ・お金を必要としないNPOもある。
- ・後継者育成を条例で促せるのか。そういう条例を作ってみたい。人をしっかり育てていける条例はなかなかない。

## ■ チーム2

- ・アンケートの回答率が低い。これを見てもよく解らない。
- ・難しい。
- ・5000万円以上が市に3つもある。福祉団体だろうか。
- ・NPOセンターにすごく大きな団体が入っている。
- ・皆さん、クロス以外は大体見られたようなので、とりあえず書いたものを出し合ってみますか。
- ・730件のうち101件しか返ってこないというのは、回答率14%くらい。アンケートとしてはどうか。
- ・回答率が低い。ここから課題が解るか。
- ・回答していない団体がどういうふうに普段感じているのかが重要かなと。50年以上活動ができている団体の継続の秘訣って何だろうか。このアンケートの会員数の区分けが大きすぎる。1000人単位というのは。規約または会則がない団体が101団体中11件もあるというのは、そもそも組織として体を成していないので

はないか。同様に、公益性というのが市民活動団体の一つの条件だと思うので、決算報告書がないというのは、きちんと活動がなされていないか、もしくは、一時的な活動なのかはよくわからないが、それは市民活動とは言えないのではないだろうか。また、3年平均年収ゼロ円というのは、どういう活動がなされているのだろうか。ボランティア組織だろうなどは考えられるが、どんな組織でも大抵会費などの収入で活動をしていると思われるが。あとは他団体との交流を行っていなかったり、決算報告がなかったり、いろいろと活動していく中でお金の管理はきちんと整備しないといけないと思う。税理士などの専門家の紹介を希望している団体が8件というのはちょっと少ないように思う。

- ・設立からの年数と会員の関係で、これだけでいいのか。というのは後継者とか年齢構成がないので、ただ何年経ったというだけなので、自分の団体そのもので抱えているのは今の大抵のメンバーがほとんどそのまま上がってしまった。15歳年をとった。そういう問題も抱えてないのか。
- ・似たような感じですね。後半の所に出てくる課題に高齢化だったり、人手不足だったり、主に人に関する支援を受けたいと思うという所にそういう問題が出てこないというのが、団体として、市としてはそういうところは求めているということか。実は会員数の年齢のところを見ると20代、30代が意外という。そのマッチングの問題も実はあるのかもしれない。意外と新規で設立されている方も多い。50年以上続いているところもあれば、新規のところもあって、その辺の繋がりとかはどうなっているのだろうか。あと財政状況として、5千万円とか、1億円とか、凄い金額だなと。難しいとは思いますが、市との具体的な関わりという設間で、協働事業とか、講演事業とか書いていますが、これってあまり具体的ではないなと思います。この先にあるどんな風な関わりを持っていきたいのかとか、それぞれ目指したいことって何なのだろうかということが多分課題になってくるべきだと思います。
- ・事業高が大きい団体が3つありました。5千万円以上、大きい所がありましたね。会員の高齢化が課題というのは予想通りかなと。
- ・私は町内会の関係で、地域のつながり推進課の方とホームページを作ろうという話が出ていて、実際個人情報の問題が出ている。例えば町内会の会長の名前は入れるけれど電話は入れてはいけないとか。メールのアドレスも入れてはいけないとか。こちらは入れて良いと言っているのに、いけないと。今、小学校、中学校の鎌倉市のホームページ見ても何月何日に卒業式をやるとかそういう情報も全然出ない。3月に卒業式があるというのは誰でも知っている。子どもの写真もほんとに顔が出てるのはダメだとか、みんなその制約がすごく厳しい。私は個人情報の問題でホームページは要らないと今個人的に思う。あと活動場所が皆さんかなりこの中では苦労されている。鎌倉市のNPOセンターの会議室のことを言っているのか。横須賀のサポートセンターが横須賀の汐入という所にあり、定期的に大学のOB会など会議など定期的に利用しているが、印刷から会議室から整っている。きちんと予約しておけば会議室とか印刷機とか借りて、広報紙とか出している時は凄く良い。鎌倉市にはそれがあるのか。今町内会の関係で地元の印刷機を借りているのでそういう点では不自由しない。他のNPOの団体の方が印刷したいとなれば、コンビニ行って有料ですとか、印刷代1枚いくらとか、別途払うことになっている。鎌倉市はそういう点ではすごく遅れているのかと思う。
- ・一応NPOセンターがその役割をするはず。
- ・今回は相互提案協働事業に提案して、「きらら鎌倉」のロビーにもそういうコミュニティーにしようということで検討を進めている。教育委員会の生涯学習センターの提案です。
- ・だから鎌倉市のサポートは名前だけがNPOセンターとなっているのではないか。やはり少なくともある程度

大きいスペースでパーティションで区切って会議ができるようにするなどが必要。他は印刷機なり、書類を折るスペースや設備も必要。

- ・鎌倉はそういうスペースや設備がないか。
- ・センターにいらっしゃれば印刷機はある。コミュニティーで皆さんで集まれる場所というので、「きらら」をうまく利用するのに、「きらら」の方から提案があったから飛びついている。あれがそのまま今年も続けば、あそこにならにやりたいと提案しているのですが、なかなか受け入れられない。
- ・町内会とか、その地区の連合町内会とか、コミュニティーの印刷機とか独自に持っている。だから町内会は比較的優先的にそっちを使う。ただNPO 団体が印刷機を貸してくださいと言われても特に深沢エリアでは貸してない状態。
- ・学習センターに登録してる団体はセンターにある印刷機は使える。NPO の方からそういった所に加盟しておけば使える。
- ・私の団体も輪転機使わせてもらったことがある。でもそこに輪転機があるということをどれくらいの団体が知っているのか。その辺の情報のギャップがあるのかも知れない。
- ・これも近いのか。事務所が本当は欲しいのだけれど構えられないのか、無くても良いと思っているのか。
- ・個人宅というのが多かった。
- ・常設とまでいかないまでも、いつでもそこに行けば会議ができるようなスペースがあるとか。
- ・月1回の定例会は社協を押さえているが、私たちは会議をする場所に困ることが多い。その他、ちょっとした会議をする場所がなく結局野原ですることもある。
- ・今年の提案事業に参加してくださいと、ホームページに載っているセンターのメールに対して案内メールを出しました。400 団体くらいある中の 140 団体ぐらしか事務所を鎌倉に置いてなかったとか、メールが無かったとかで、メールが出せたのが 140 団体ぐらしかなかった。
- ・今のお話しでは、会議室とか場所も足りないし、印刷機はあるけれど知らない人がたくさんいる。事務所が無い。場所が無いというのが上がってきている。
- ・以前 TV で放映していたが、大磯の町では町が用意して NPO に部屋を2万円くらいで貸す。これは世田谷区も企業の手放した宿舎を買い取って細かく区切り行っている。横須賀も YRP の中に部屋貸ししている。そういうところは行政がやればできることはある。
- ・横浜市というのはずっと行っていた。だけど実際はどうでしょうか
- ・横浜では自立支援がメインで3年間という区切りがあり、そこを出た後に複数の団体が集い、自分たちでシェアオフィスを作る場合もあります。横浜市が行っている共同オフィスでは、スペースの問題があったり、家賃は相場よりは安いけれど、そこで協働が生まれるかという点必ずしもそうではない。そこにサポートはしていくんですが、義務感で関わる団体もあるという問題があるようです。なので、行政がやればいいのかと言えばそうでもないと思います。やっぱり民が主動でやった方が自由にできる。ただ、その家賃を払っていく資金力というのも必要となっていく。
- ・深沢地区のエリアで 30 の町内会がある。1年で町内会長を交代するのは半分、15 の町内会は毎年交代する。ほとんど残りは2年任期で、在任は3年。2年で辞める人がほとんど。昔の町内会長のイメージという町内会長を何十年もしているとか民生委員を何十年してる方が多い。1年の町内会長は何も出来ないと思う。極端なことを言うと自分の所の民生委員さん誰ですか、と聞いてくる。町内会長の推薦が必要なのに。3年に一度、民生委員を推薦する。それを引継ぎも何もないから、1年交代の町内会長となると新規の

事業とはできない。今まで行っていることをただ単に行うことになる。なり手がなくて、持ち回りとする。規約などで1年すると、その人がいくら優秀でももうダメだとか。極端な所では全員変わる所もある。会長から、副会長から。

- ・成り立っていかない。
- ・町内会の活動自体が出来ないと思う。総会などで規約だけは2年にしてくださいとお願いはしている。それも参入を妨げないということにして、会長、副会長を何年かして、上へあがっていき 5、10 年して代わるくというやり方をそれぞれの町内にはお願いはしているが、なかなか難しいのが実態。
- ・横浜だとずっと町内会長という方もいるが、意外と鎌倉だとそういう方はいない。
- ・旧鎌倉の方はそういう方も残っている。
- ・だから両極端。
- ・その外側にある大船、深沢辺りはみんな新しくなっている。
- ・深沢は外から入って来られている方も多い。
- ・そうですね。今、外からという話も出たが、旧住民と新住民との融合、それがなかなかうまくいかない。町内会では、昔からの自治区の間でしか役はやらないとか。それも分家の長男はダメだとか。本家の長男でないとダメだとか。婿さんではダメだとか。それが現実である。
- ・昔聞いた話では旧住民というのは鎌倉幕府の時代からでないとダメだと聞いたが、もうそれは最近ではないのか？
- ・三世代住んで初めて鎌倉の住人だみたいなところは、いまだに言われたりする。
- ・先ほどホームページの話をしたが、個人情報の問題で、町内会長の名前しか載せない形のものを作っても仕方ない、と思うが。NPO 団体のホームページもそういう形ではないかと思うのだが。
- ・NPO は全部出ている。
- ・県に報告しなければならないことは全部書きます。県のホームページに全部載りますから。役員から何から全部載ります。あと普段この辺でやっている活動の写真是どうするとか。そういうレベルだったら、小学校と同じ。法人取る時にオープンにしなければならないことがありますから。
- ・先ほどの町内会の話で、相模原市の市民会議に参加してまして、その時も町内会とかそういった所が一番問題になっていて、まず町内会に入ってくれる人がすごく少ない。入ってくれない。町内会長さんが会費を払ってない人に場所を貸したくないとか。そういうことがあって頼んでも貸してくれないけど、子ども連れのお母さんたちは両親とも仕事をしていたりするから、もしそこに子どもを預けられて、お母さんが交代で見られたら、というのがあるけど、貸してもらえない。変に壁があつたりして四苦八苦していました。そういった所で壁が取り払えるようなことがあつたら、都合がつくことが色々あるのではないかと思います。そこに関して、区だったり、相模原市だったりは何か出来ないのかと揉めていました。
- ・両極端なんでしょうね。個人情報というのは公の所には出せないけれど、自分ではスマホでいくらでもばら撒いているんですね。こんなにばら撒いていいの！というくらい。それが何かかまってしまうと、それは（個人情報）ダメだと。学校の情報は本当に厳しい。苦労されています。鎌倉市内で同窓会を持っている小学校は、腰越と大船小学校だけだと思います。
- ・深沢も持っています。
- ・持っていますか。腰越などは100年以上続いている同窓会ですけども、同窓会のメンバーの名前、これをどうするかというのが大事な問題です。個人情報ですから。各学年に全部任せるみたいな、縛りにしないと

皆さん参加しない。

- ・(4)②(アンケート:貴団体によるサービスを受けている人(利用者)の数)がよく解らないなと思っています。団体の所属人数ではないけれど、何か施設を運営している所の利用者なのか。一緒に活動している人だったりもするのかなど。
- ・確かにサービスの提供によっても人数的なものが大きく変わってくる。
- ・施設を貸出をしていますよというサービスの仕方ならやりやすいけど、私の今、里山保全の方だとどこまでなのだろうと。間人の人数なのか、一緒に活動している人数なのか、それで公園に来ている人とか、その公園協会の人とかはどうするのだろうとか。その辺りを考えると出来るだけ多くしたければ、全部含めてしまおうと思うのではないかと思います。何についてなんだろうと思います。
- ・どこまでの枠なのかですよね。すごく良い質問で。
- ・確かに良い指摘ですね。それ思っていました。
- ・5分で読んでと言われても何が何だか解らない。こういうものをやる時にこれを見て私は何を出して良いか解らない。一母は、いったい何をしにきたのだろうと。こういうことの経験のある方、有識者の方でないこの結果をみて自分の意見はどこで反映されているのか、非常に分かりにくい。これを作るのにどれくらいの時間を有したのか、何を着地点としているのか。これを作るための着地点だったのか。さっきの話の中で規約を作るために作られた委員会ではないのか。自由な意見をたくさん出していくという話があっちょっとほっとしているが。地域のつながり推進課という分かりやすいネーミングの中で、このタイトルを出されてきても、一お母さんが読みたくなるのかと。スーパーお母さんでも読みたくない。
- ・それはすごく良い感想だと思う。
- ・アンケートを書いた人間だが、書くときもよく考えて書いてしまった。例えばある会だが、17 団体がありそれのまとまりで、そこに色な会があり、そこに子ども達は何十人かいて、どこまでの人数を書けばいいか分からなかった。活動者は3人くらいなのだが、そこから派生する人数がとても多くなるので、どこまで含むのか。結構アンケート自体書きにくかった。
- ・会員数の線引きもおかしかったが、税源の割合もおかしくなかったか。おかしい所が結構あって書きにくいだろうというのがこのアンケート。
- ・この高額な金額は何なんですか。具体的にどの団体か教えてもらえませんか。
- ・介護保険事業所です。
- ・果たしてそれは NPO と言って良いのか。
- ・NPO というのは儲けてはいけない団体ということではないので、それは問題ありません。ただし、そこで得た収益を何に使うかが重要なのです。自分たちのポケットマネーにするのではなく、社会課題の解決のために使う、つまり、社会に再投資することを NPO は行っています。収益をあげないと経営出来ないのです、考え方としては、株式会社と一緒になんですよ。
- ・一緒とは言わないまでも確かに。
- ・非営利団体はむしろ難しい。
- ・市民活動はほんと幅広い。配布数 730 のうち 101 回収ですが、730 というのも本当に鎌倉市の市民団体、NPO 法人が全て網羅できているのか。実は解らない。
- ・誰が利用者かという話で、NPO とか市民団体とか誰が利用者で誰がサービスをするか分けないのがすごく良い所。いろんな人が同じことをやるのがとても良いことだと思うので、この設問そのものもすごく違和感が

ある。全体的にニーズの把握ができない。辛口の話になってしまった。

## グループ発表

### ■ チーム1

そもそも条例において、何を主に考えるか。

NPOと市がどのように協働するか。そもそも協働する必要があるのかももう一度考えなくてはいけない。

協働作業のとらえ方。

行政の立場から考えた場合、相手方のNPOがどういう組織であるか、どういう活動をしているか、その判断基準も大切ではないか。

鎌倉と言うのはどういう特徴があるか。神奈川県の高齢化都市。いいところ悪いところある。

人材育成、後継者不足はNPOとしても考えなくては。

行政としてはNPOを評価しなくてはいいが、NPOの活動が表にどうやって出ればいいのか。

NPOの悩みとしては高齢化と財力。NPOの活動にとってお金が必要なところとそうでないところがある。

様々な運用の仕方がある。

個人的には、協働が果たして重要なのか。

行政とやることによって足かせがついたり、うまく出来たり、その選別をうまくやらなくてはいいけない。

行政の立場としては、NPOを信頼できるのか。きちんとしてくれているところか、頼んでも大丈夫か。

NPO同士の評価、横の連携であるか。

この評価が一番重要だと思った。



- 市民性
  - 道徳心の高い方が多い
  - 市に何をやってほしいかではなく、自分達はこうやる
  - 市にはこういうことをお願いしたいと言う
- NPOの在り方
  - 指定管理者を経験したNPOの感想が何えなかった
  - 行政はNPOを育てて
  - NPOは本来行政の補完組織
  - 市民活動は自主文化的活動と公益的活動を分けて考える必要ありでは？
- 活動の種類
  - 市民団体は企業と競うべきか？
  - NPOこそニッチビジネス狙うべき
  - 福祉、子供、環境、教育、文化がNPOの3分の2
  - NPO＝福祉が主流
  - やはり女性中心
- 協働の捉え方
  - 市との協働は大事

市は「市民協働」をどう定義するかがポイントになりそう…市民と考え方が一緒だとよいのだけれど…

市とかかわりがない。他団体と交流がない→なぜ？

かかわり→アドバイスを求められた(相互支援)

市民活動をアドバイスする市民活動があったらいい

市民のニーズはどうやってとらえる？

#### ・実績評価

協働の評価をする適正な機関がない

弁護士、会計士(専門家の必要性)

評価される事=人が集まる

実績の積み上げを評価できる項目が見つからなかった

活動内容→どうしたら理解を得られる？従来と違う枠組みが必要？(市民100%の満足はない…)

他団体との「かかわり」って何を求めたいのだろう？

#### ・高齢化

年齢高

なにをやるにも年齢の高齢化が問題

鎌倉市特長 高齢化

会員の年齢層→高齢化

高齢化は市全体の問題ということは、協働は全市の全問題と同等の課題ともいえませんか？

高齢化、人手不足、新しい会員不足、リーダーや後継者が育たないのは共通の土壤があるのか？

#### ・財力

鎌倉市特長 所得が高い方が多い

お金欲しいといえない？

財政は高～低まで様々。補助金などはその規模に応じて補われる方がよさそう…

活動内容により財政状況は様々

「ボランティア」は無償？とらえ方

#### ・後継者

後継者育成には行政の財政支援が欠かせない

団体機構(年齢のバランス)=後継者不足

後継者育成、PRなどは条例でカバーできるだろうか？是非考えたい

若い人たちの参画を促す施策は条例で実現できるの？

#### ・PR方法

宣伝にマスコミを使う 手法も good

広報、ちらしポスター、HPからステップアップ

#### ・活動の場

支援希望1位は「金」だと思ったら、「会議室」なのにびっくり。かまくら市民らしい。

会議室→町内会館も活用できないか？

活動場所って特定(定まっている)必要があるの？

個人宅 事務所なし

事務局が個人宅なのは気易さの面もある？

・経過年数

設立されてからの年数→長い(5年以上が半分以上)新しい団体が少ない

経過年数で課題は変わるのか？

若い団体多い→長続きしていない？

■ チーム2

アンケートの存在が問題。アンケートの着地点がどういうことなのか。書いた人が、何をどう書いたらいいのかテーマの理解がしにくい記述のアンケートであった。中に含まれている項目で、財源、会員数の区割り。2人～1000人は何を想定してくりをつくったのか。回答率も低すぎる。対象の730団体はどういう団体かが分かりやすいと良かった。

活動歴の長い、100年の歴史がある団体もある。今直面している問題、高齢化。新しく若い人がボランティア団体を作っている。後継者を作らなければいけない団体がありつつ、新しく協働・共助に若い人が参戦してきていることが驚き。

組織として規約も決算もないという団体は協働ができるのか。サークル的な自分たちの楽しみのための団体ではないか。協働は市民に反映する中身でなくてはいけない。それを含んでいいのか。

財政的にびっくりするような金額の団体があった。自分が関わっている団体は自主事業でお金を稼いでいるが、自前で1千万円稼いでいる団体はほとんどない。財政的問題に絡んでいる。事務所がないという問題につながってくる。

町内会では、プライバシーの問題、なり手がいない、一年交代では継続性がない。

長くやることがいいことと、短いことがいいことと 市民活動はその点で難しい課題であると思った皆で頑張らなくてはならない。



・町内会の課題

町内会の加入率は？

町内会のカベをどう取り払えるか？

三世代住人でやっとな鎌倉住民

町内会の役員は一年交替で継続されない

町内会の組織が両極端

個人情報、ホームページ、氏名、TEL、メール等のはのせない。

・活動場所苦労！！

活動場所 会議室 資料印刷

印刷機が使えることを知っている団体はどのくらいある？

事務所はいるのか？ほしいけどがまんなのか？

・財政力

会計士などの専門家の紹介が8件と少ないのでは

財政状況 5000万～1億 over すごい

3年平均年収0円とは？ どう活動している？

事業費が大きい団体がある(3つ)

・組織？

「他団体と交流なし」とは内向き？

規則なし 決算なし は組織か？

決算・事業報告なしは組織として体を成していない？

規則、会則がない団体が 101 中 11 団体もある＝ガバナンスに問題あり！？

規則、会則ないのは同行会？

・「人」の課題

課題＝主に“人”に関すること

設立からの年数と会員の年齢、後継者の有無の関係

会員の高齢化が課題は予想とおり

年齢数、20代、30代の意外な多さ

・スゴイ！！活動歴が長い！！

50年以上活動歴が6団体ある

新規設立の多さ

○このアンケートの着地点は？

有識者、経験者にしかわからないまとめだ

一市民がわかりやすいまとめにして欲しい

一お母さんは読みたくなるのか？

かかわり、それぞれの項目でのかかわりとは？目指したい方向とは？

貴団体による「サービスを受けている人」とは？

回答率が低い＝課題わかる？

回答率低い

“730”が本当に全て把握しているのか？

財源の割合が変

子育て団体や子育てしている人の対象が少なすぎ。

会員数の区分けが大きすぎる

会員数 1000 人未満をもっとこまかく

会員数のグラフ悪い

会員数 2～1000 はおかしい

ネットワーク組織の場合は、どこまでが範囲かわかりにくい！？